

第38回

作文・図画コンクール作品集



ごはん



お米とわたし



JA岩手県中央会

目次

◆ごあいさつ.....	1
JA岩手県中央会 会長 田沼 征彦	
◆図画部門入賞作品.....	2
◆作文部門入賞作品.....	8
◆総評.....	14
審査委員長／岩手県教育委員会 委員長 八重樫 勝	
◆図画部門を審査して.....	14
元岩手県国公立幼稚園協議会 会長 伊藤 満久	
◆作文部門を審査して.....	15
盛岡市教育委員会 学校教育課 指導主事 小林 満	
◆コンクール入賞一覧.....	16
◆コンクール概要.....	20



いであいわ

JA岩手県中央会

会長 田沼征彦

第三十八回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに、作品をご応募いただきましたみなさまに厚くお礼を申し上げますとともに、入選された方々には心からのお祝いを申し上げます。

このコンクールは、これからの食・農を担う次世代の子どもたちにお米・ごはん食・稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般について学びを深めてもらうとともに、稲作農業の多面的機能とお米・ごはん食の重要性を周知することを目的として実施いたしております。

三十八回目を迎えた今回も、県内各地から作文百二十一点、図画三百一点もの力作が寄せられました。この中から全国コンクールにおいて、作文部門二点、図画部門一点が優秀賞に入選いたしました。また、東日本大震災から間もなく三年を迎えようとしています。復興途中の厳しい状況のなか、被災地域の学校からも作品を応募いただきましたことにお礼を申しあげます。

わが国の農業は、全ての品目の関税を撤廃することを原則とするTPP（環太平洋連携協定）という貿易等に関する協定への参加問題に直面しております。関税撤廃により大規模生産が可能な外国から農畜産物が大量に輸入された場合、わが国の農業は壊滅的な打撃を受けてしまいます。食料自給率の低下は、私たちの食生活を危うくすることになってしまいます。

また、昨年末に決定された「農林水産業・地域の活力創造プラン」

では、「強い農林水産業」をめざして米政策の見直しが掲げられるなど、農業をとりまく環境は大きく変化しております。

こうした状況を踏まえ私たちJAいわてグループでは、本県農業の振興に向けて、関係機関と連携をはかり様々な取組をすすめて参る所存であります。

JAグループでは、心と体を支える「食」の大切さを考え、安全・安心な国産・地元産農畜産物をみなさまに提供するとともに、それを生み出す農業の価値を伝え、国産・地元産農畜産物と日本の農業のファンになっていただくという「みんなのよい食プロジェクト」の取組を全国的に進めております。「食」の未来をつくることは、日本の未来をつくることにつながります。その中心となるのが、日本の食文化を築いてきたお米です。

このコンクールを通じて、家族や友人を大切にする心、地域の人たちへの感謝、伝統ある食文化への敬意、そして心を込めて育てたお米のおいしさや農業への素晴らしさに気付き、これからの農業の未来について考えていただければ幸いです。

最後に、小・中学生のみなさまの豊かな心を育んでいくためにも、学校の先生方をはじめ、関係するみなさま方のご支援とご協力により、このコンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

図画部門

いわてけんきょういくちょうしょう
岩手県教育長賞

「ほっかほかごはん大好き！」

おいかわりん
及川 凜

おうしゅうしりつきくらかわしょうがっこう
奥州市立佐倉河小学校 5年



図画部門

ぜんこくゆうしゅうしょう
全国優秀賞
いわてけんちじしょう
岩手県知事賞

「円万寺田植えおどり」

さとうたく
佐藤 拓

はなまきしりつぐちしょうがっこう
花巻市立湯口小学校 5年



「おひるだよ～！」

さい とう り お
齊 藤 璃 音

もりおか しりつちかいなか の しょうがっこう おん
盛岡市立向中野小学校 1年



「お米とわたし」

お や け ま ゆ
小 宅 真 由

もりおか しりつしょうとうちゅうがっこう おん
盛岡市立城東中学校 1年



「お米と私」
小島実奈
もりおか しりつものはしちゅうがっこう 2年
盛岡市立下橋中学校 2年



「おいしそうなおにぎりだ!!」
佐々木 円
はなまき しりつうちかわ めしょうがっこう 1年
花巻市立内川目小学校 1年



「もっとつながっていきたい」

きく ち みずき
菊 池

おうしゅうしりつ きざいく しょうがっこう ねん
奥州市立木細工小学校 4年



「のりのつくだに、買って来てけろや。」
うちのじじは、去年、ひざをいためて、入院しました。食べ物、自由に食べられたけれど、じじは、たきたてのごはんとのりのつくだにが食べたいと、お見まいに行くたびに言っていました。
自由に動けない時、ごはんが楽しみの一つになっているようだったし、じじに元気をくれていたようでした。それに、わたしは、今年初めて区の水泳記録会に出て、朝からずっときん張していたけれど、泳ぐ前に、おにぎりを食べたら元気が出て、自分の記録を十秒以上ちめることができました。
「みずきさんは、いつも元気いっぱいだね。」
わたしは、よくこのように言われます。ごはんが大好きで、いつも山盛りごはんを食べているからかなと思います。毎日たくさん食べるので、わたしはお米でできているのではないかと思うほどです。ごはんは、わたしたちの元気につながっているなあと思いました。
わたしが、こんなにごはんが大好きなので、たん生会や、お祝いの時は、いつもごはん料理です。ほかに、お正月は、ひつこがたいてくれたお赤飯とおしるこを必ず食べます。地いきの方といっしょに、みずきだんごも作ります。節分には、え方まき。春には、山でとった竹の子ごはん。夏には、うなぎ丼。秋は、くりごはん。ごはんは、毎日の食事だけでなく、わたしたちの一年のくらしととてもつながっているなあと思いました。
それだけでなく、お米はいろいろな物に変身して、知らないところでもわたしたちにたくさんつながっています。

た。家族みんながよく食べる、おせんべいやおだんご。ひつこやばが大好きな甘酒。給食では、米粉パンが出ます。そのほかにも、すや油、みそ、お酒など、毎日料理に使うものもお米から作られていました。どれも身近なものばかりでした。
わたしは、三年生の時、きょう土文化館に行ったり、本で調べたりして、お米の勉強をしました。その中で、お米は二千年以上も前から作られていることを知り、昔から今までずっとつながっているお米はすごいなあと思いました。それに、昔は、お米を食べるだけでなく、わらは牛にあげたり、わらぐつやみのを作ったりしていました。ぬかは、ぬかづけや肥料に使っていました。このように、お米は、生活と大きくつながっていました。
今は、いろいろな食べ物があるし、生活も便利になったけれど、お米とたくさんつながっているところは昔と同じと知って、うれしくなりました。そして、もっといろんなところでつながっているような気がしてきました。
これほどわたしたちとつながっている食べ物、ほかにないと思います。わたしたちは、これからもこんなにすてきなお米を大切にしていかなければならないと思うし、もっともっとつながっていきたくらいなあと思います。

「米づくりー陸前高田市からのレポートー」

さ さ き えり か
佐々木 恵利佳

りくぜんたか た しりつたか た ひがしゅうがっこう ねん
陸前高田市立高田東中学校 1年



七割。この数字は、陸前高田市が東日本大震災の津波による水田の被害を表す。そして今も、海の近くにあった水田は、雑草が生い茂っていたり、土が盛られていたりという現状である。改めて被害の大きさを知る。
今年五月のこと、嬉しくなるできごとがあった。通学路から少し離れている土地が、整地されて、再び田んぼに水がえっていたのである。気がついた時には、田んぼに水がはられ、田植えが終わっていた。震災から二年ぶりに、青々としたイネを見ることができた。今でも、整地するために、ブルドーザーが動き、大型トラックが行きかっている私の町。元の通りの田んぼになることは、予想外だった。更に驚かされたのは、ボランティアの人達が田んぼをよみがえらせようと、手作業で片付けていたことだ。ボランティアの人は、
「大きな石はもちろん、ガラスや日用品など、いろいろな物が埋もれていた。米づくりをしてほしいという願いから、作業を行った。」
と話していた。また、津波による海水がしみ込んだ土の除塩の作業も大変だったという。こんなにもたくさんの人達が苦勞して元にもどった田んぼ。田んぼの持ち主のコメントが新聞に掲載されていた。
「いろいろな人の支援があったからこそここまでこれた。ありがたいですね。温かい支援を受け、ふさぎ込むばかりじゃなく前向きに取り組まなきゃいけないと思った。この経験を絶対に忘れない——」
米づくりをしている人達の心まで考えた支援は、本当にすばらしいと痛感した。
七月のことである。夏だというのに、低温続きと日照不足の日々。このため、イネの成育が遅れてしまった。私は、平成五年の「米不足」のできごとを家の人達から聞いた。
「平成五年、北日本を中心に冷害に見舞われた。それに加え西日本を中心として台風の影響と長雨。更に、全国的

に「いもち病」の発生とこれまでにないイネが大きな被害を受けた。そのため、米が輸入され、国内産の米の値段が高くなった。」
それが、平成五年のできごと。お米屋さんから、米が消えてしまったというニュースも流れたそう。今年と平成五年の天気、あまりにも似ていて、母の職場では、毎日イネの育ちと天候の話題が続いたそうだ。
八月になり、田んぼは、大きな打撃を受けてしまう。今度は大雨である。大雨が降り続き、川がはんらんし、田んぼに土砂が流れたり、イネが水につかってしまうといった被害を受けた。近所でも田んぼが流され、水が引くのを待つて補強したそうである。私の家でも心配になった祖父が夜中に田んぼを見回り、どんどん流れてくる水をくい止める作業をした。夜なので、あたりは暗く、私は、かい中電灯で照らした。もう少しで、水があふれてしまうところだった。次から次へと田んぼは大きな影響を受けて、気が安まる暇がない。幸いなことに、大雨の後、夏晴れが続き、イネの成長は回復した。
そして、平成二十五年九月。イネは黄金色になり、稲穂はこうべを垂れている。気のはやい田んぼには、もう「カカシ」が立っている。まだまだ安心できないのは、これから台風シーズンに入ること。イネを刈り取るまで、約一ヶ月。一ヶ月後は実りの秋にしたい。
陸前高田市では、少しずつであるが、田んぼがよみがえっている。来年には、更に田んぼが整地されているかもしれない。年数はかかるかもしれないが、被害を表す数値が減少してくればいいと思う。
県外から来てくださったボランティアの人達にも、イネが実った田んぼを見てほしい。
米づくりをしている人達が元気になる、陸前高田市になってほしいと願う。

「お米に隠された凄い力」

かん の ひ より
菅 野 映 和

いわ て けん りついちのせきだいちこうとうがっこう ふ ぞくちゅうがっこう
岩手県立一関第一高等学校附属中学校 2年



蝉の鳴き声が耳元で響く夏、祖母は汗だくで家に帰ってきました。

「今日は暑いねえ。お米も嬉ぶわ。」と農作業から帰ってきた祖母が言いました。わたしは、なぜお米が喜ぶか意味も分からず、昼食のサンドウィッチを食べていました。すると祖母が「お米食べんと元気出ないぞ。」と言いました。わたしはパンも炭水化物だからお米と同じだろうと思い、「パンでも元気つくよ。」とそつけない返事をしました。そして、「全然違う。お米には凄い力があるんだ。」と祖母が言い、わたしは興味もなく「はいはい。」と返事をしました。

ある日、大雨が降り家の近くの地域では、洪水が発生した所もありました。そんな日に祖母は、「田んぼを見てくる。」と告げ家を出ていきました。帰ってくると、全身ずぶぬれでした。わたしが「大丈夫。」と聞くと「ああ、お米は大丈夫だったよ。良かった、良かった。」と、聞いてもないお米のことを答えて、わたしは祖母が前に言った「お米の凄い力」について分かった気がしました。

お米には、作ってくれた農家の人の汗と努力と愛情がたっぷり入っているのだと思います。どんなに暑い日でも、たくさん雨が降った日でも田へ行き、自分よりお米のことを考えていてすごいと思いました。パンや麺も作った人の努力はつまっていると思いますが、お米にはその倍の気持ちがあるんじゃないかと思っています。消費者に美味しいお米を届けたい、そんな気持ちがお米の一つ一つに入っているのだと思います。今、パンや麺に人気が集まり、お米を食べてくれる人が減っています。わたしもその一人でした。けれど農家の人の働く姿を見て、やっと「お米の凄い力」に気づくこ

「おいしい ごはんの ひみつ」

お や ま き ら
小 山 希 来

いちのせき し りつちろ ね ひがしやうがっこう
一関市立室根東小学校 2年



きよ年の秋のことです。わたしは、はじめておじいちゃんとおばあちゃんのおねかりを手つだいしました。かりとつたいねをお日さまにほすのです。おじいちゃん、「こうやってほすと、お米はとても、おいしくなるんだよ。」とおしえてくれました。わたしは、「うちのおいしいごはんのひみつはこれなんだ。」と思いました。このごろは、米をほさなくなっているうらがふえていそうです。おじいちゃんは、「ひと手まかけた分、おいしくなるんだよ。」とも、話していました。わたしのおうちのごはんが、ふわふわしていて、おいしいわけがわかりました。

今年の春は、田うえの手つだいをしました。きかいでうえれなかつたところをわたしがうえるのです。おじいちゃんは、「きは、もう一人で田うえができるんだね。」とほめてくれました。田んぼは、にゆるつとしてながぐつがしずんでしまつて、田うえは大へんでしたが、がんばつてよかつたなあと思いました。

イネはすすくそだっています。

ところが八月に、雨がたくさんふつて、大水が出ました。おじいちゃん、とても心ばいしましたが、田んぼはぶじでした。かぞくは、みんなほつとしました。

秋になったら、かりとつたイネをほして、また、おいしい、おいしいお米にしたいと思います。きよ年のやり方を

とができました。

「いただきます」や「ごちそうさま」を気持ちを込めて言っている人が少なくなっていると思います。みんなが言っているから言う、学校の決まりだから言うなど、本当に大切なことを忘れていると思います。命をいただくことはもちろん、作った人の努力と愛情もたくさんもらうのです。お米一粒に入っている甘さを知っている人も少なければ、好き嫌いをすることがあたりまえになっているこの世の中でお米という昔からわたしたちを支えてくれた命への感謝を取り戻すことが必要だと思っています。そして、食べ物へ、作ってくれた人へありがとうという感謝を込めて「ごちそうさま」と言うのだと思います。毎日の食卓にあたりまえのようにあるご飯に安全と美しさがあることはとても幸せなことです。アフリカなどの地域はお米を食べることができない人の方が多いのです。

わたしはこれから毎日、ご飯や食べ物に感謝していくことを忘れません。少しずつでもお米の大切さに気づいてくれる人を増やしていきたいからです。汗をたくさん流している姿も毎日お米を考えている姿も輝いています。

お米を作る農家の人や、お米をお店に運んでくれる運搬者の人など、たくさんの人たちの協力に感謝と笑顔をお届け返さなくてはけません。農家の方は、わたしたち消費者のことを考えてくれているのだからわたしたちも農家の人をお米を食べる人も増え、食に対する行為も変わっていくと思ひます。一人一人が農家の大変さを体験することは出来なくても考えることはできます。

今日も祖母は汗だくになって農作業から帰ってきました。わたしは昼食のおにぎりを食べ終え祖母に「ごちそうさま。美味かったよ。」と笑顔で言いました。



おほえているので、今年は、じょうずにできそうです。お日さまのひかりをたくさんあびて、おいしい、おいしいお米になってほしいです。

「支えてくれているお米」

さききかこ
佐々木 佳 子

にのへしりつじょうほうじしょうがっこう
二戸市立浄法寺小学校 6年



最近、パンやめん類が好きという人が増えてお米を食べなくなってきたと聞きます。私もパンやめん類が好きです。でも、地区の行事で田植えをしたり、稲刈りを何度か体験するうちにお米の大切さを知りました。

私の地区には「かだつて会」という三世代交流の会があります。その会の田植えと稲刈りをおばあちゃんたちに教えていただきながらすべて、昔ながらの手作業でやりました。

田植えでは、田の上にひかれた線の上に等間隔に苗を植えます。簡単そうにみえたのに、やってみると田の中は、ぐちよぐちよで、足がはまって思うように進みません。中腰でやっているのでも腰もつかれます。私がつかれて立って休んでいる間も、おばあちゃんたちはほとんど働いてすごいなと感じました。

稲刈りは、私の学校の五年生全員とかだつて会のみさんとやりました。今まで稲を刈ろうとすると、バツなどの虫が飛んできて、びっくりしました。稲刈りもまたおばあちゃんたちがコツを教えてくださいました。稲を少し後ろに倒して刈る方法です。この方法だとサッサッと刈ることができて、作業がはかどりました。

そして今度は、刈った稲を束にする作業です。私は何度も教わりましたが、出来たと思って、結ぶ方向がちがっていたり、きつくしまっていないと、おばあちゃんたちにやり直していただきました。おばあちゃんたちは、素早く束にしていきます。私が一束できた時には三束目に入ってしまうと思います。私くらいの時にお手伝いをして、慣れたんだろうと思いました。

お米をつくってみて、お米をつくってくださる農家の人々の大変さを知り、その仕事にたずさわる人のお米への愛を感じました。きっとお米は、自分の子供のように育てているのだと考えました。仕事でいやいやつくっている人はいないと思います。暑くても寒くても田んぼで働き、大雨だと田んぼを心配し、まさに子供を育てるようだと思います。

私が住んでいる町には、田が数多くあります。ということとは、私たちのような子供のほかに、米という子が大切に、多く育てられているのです。なんだか、うれしい気持ちになりました。

今まで、あたり前に食べていたお米が、お米づくりの体験をしたことで、ありがたさと大切さを感じて食べるようになった。お米づくりをたどっていくと、つくる人はもちろん、水や太陽などのすべての自然に支えられて私たちは生きていることがわかります。

私たちがつくったお米は、すいはんきを開けると、ふわっという香りがたちこめ、ピカピカしていました。つくった人の笑顔のようです。これからも、大事に育てたお米を一粒も残さないように、おいしく楽しみながら食べていきたいです。

「おいしいごはんになあれ」

きくちみのり
菊 池 美乃里

おうしゅうしりつきざいくしょうがっこう
奥州市立木細工小学校 3年



「みの、お米ときおねがいね。」

がんばるぞ。今日は、わたしがお米とき当番です。お米ときのことばは、二つあります。

まず、お米をはかって、水を入れたら、やさしくゆすぎます。水が白くなったら、ゆっくり流して、お米をしゃっしゃつと三回転。この時、強くにぎらないことが、わたしが見つけた、おいしくたく一つ目のことばです。

「今日のごはん、ちよつとやわつこくない。」その日の当番は、わたしでした。どうしても見たい番組があったので、テレビを見ながらお米をといだら、力が入ってしまったので、お米のつぶがわれてしまったのです。

「ごはん、めちよめちよでごめんね。」

「いいよ、いいよ。」

お母さんの作ったおいしいりよう理も、めちよめちよのごはんには、もったいないようなかんじでした。わたしは、力を入れて強くぐくと、だめなんだなあと思いました。

もう一つのことばは、といだ後、水をちよつとよく入れることです。これは、お母さんが教えてくれました。でも、「やりたくないなあ。」と思いながらといたら、水を入れまちがえて、かたたくたけてしまった時がありました。同じお米でも、水のりようだけで味がかわってしまうんだなあと思いました。

「やさしい気持ちでとぐんだよ。」

そして、これが、お母さんのかくし味。お母さんのたいたごはんは、やわらかくて、ふんわり。お母さんにびつたり味がします。わたしの大きな味です。



「今日も、じょうずにたけているね。」

わたしのたいたごはんを、みんながにこにこいっぱい食べてくれました。

お母さんのりよう理は、どれもとてもおいしいです。そのりよう理にびつたり、お母さんみたいなふわつとしたごはんがたけるように、わたしも早くになりたいです。

総 評

審査委員長

岩手県教育委員会
委員長

八重樫

勝

今年もたくさんのお優れた作品が応募されました。応募された皆さんには感謝いたします。

このコンクールは、主食のごはん・お米について見直したり、働くことや農業の大切さについて考えたり、郷土や家族との関わりについて考えたりしたことを作文や図画に表現することを目的として実施し、今年で三十八回目を迎えました。

あの東日本大震災が発生してから三年になります。被災地の学校では、未だに不自由な環境の中で勉強したり、運動したりしています。厳しい環境の中でもこのコンクールに応募してくれた学校が多くありました。

また、学校を挙げてこのコンクールに取り組み、多くの作品を応募してくれた学校もありました。このコンクールに寄せる期待の大きさが伝わってきてとてもうれしく思いました。

岩手県においては、十月に第一次審査会を行い、作文・図画それぞれ九点、合わせて十八点を全国コンクールに応募しました。

その結果、作文部門で優秀賞二点、図画部門で優秀賞一点が入賞しました。おめでとうございます。上位入賞はありませんでしたが、岩手の作品のレベルが全国からも評価されており、誇るべきことと思

います。十二月に二次審査を行い、本県の各賞を決定しました。入賞された皆さんおめでとうござい

ます。指導に当たられた先生方や温かく支えていた

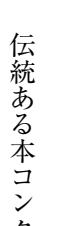
いたご家族の皆さんにもお祝いを申し上げます。審査を通して感じたことは、一つの作品を仕上げるために、少ない時間を上手に使って懸命に取り組んでいる様子がよく伝わってきたことです。また、根気強く色をていねいに塗っていること、作品を

読み返して言葉を吟味していることに感心しました。また、作品の題材を決めるために、郷土の行事や家族の様子、社会の動きにしっかり目を向けていることにも感心しました。作品をつくるためには、対象をよく観察する目を養うことが大切です。

図画部門を審査して

元岩手県公立幼稚園協議会
会長

伊藤満久



伝統ある本コンクールで見事受賞された皆さんおめでとうございます。今、図工・美術の授業時間が少なくなってきた中で、このコンクールの意義を深く受け止め、子供の豊かな感性を引き出し、優れた作品を応募された学校は小・中合わせて四十三校（応募総数三〇一点、前年対比一二八点増加）でした。各校の取り組みに感謝しながら楽しく充実した審査をさせていただきました。審査に当たっては、技法にこだわらず伸び伸びとした作品から表現力の高い作品まで、発達段階にあった内容を観点とし

しました。その中から厳選した九点を全国コンクールに応募しましたが、全国の図画部門の応募総数六万九八三七点から優秀賞に花巻市立湯口小学校五年佐藤拓君の作品が受賞するという高い評価を受けました。本当におめでとうございます。

ここでは県コンクールで受賞した主な作品について講評いたします。全国の優秀賞及び岩手県知事賞を受賞した佐藤拓君（花巻市・湯口小学校五年）の「円万寺田植えおどり」は、郷土芸能のおどりの場面を衣装や動作、手先と目線の一体感等よく観察して描き、豊作を願う気持ちが伝わってくる作品です。特に主題の選定が全国でも高く評価された秀作です。

岩手県教育長賞受賞の「ほっかほかごはん大好

作文部門を審査して

盛岡市教育委員会学校教育課
指導主事

小林満



き！」の及川凜さん（奥州市・佐倉河小学校五年）の作品は、炊き立てのご飯を今口に入れようとして大きく見開いている目にうれしさいっぱい感動が伝わってきます。特に湧き上がっている湯けむりの表現が素晴らしい力作です。

東北農政局盛岡地域センター長賞の「お米とわたし」の小宅真由さん（盛岡市・城東中学校一年）は、一緒ににおにぎりを食べているお婆さんとお孫さんの笑顔で互いに見つめあっている微笑ましい情景を表現している作品です。また、背景に豊作を予想させる稲穂の列を描き入れた田園風景を配置するなど温かい絵となっています。

J A五連会長賞の齊藤璃音さん（盛岡市・向中野小学校一年）の「おひるだよー！」の作品は、おいしいおにぎりをほおばりながら、働いている人へ呼びかけている声が聞こえそうな迫力のある描写が評価されました。

優秀賞を受賞した2人について、佐々木円さん（花巻市・内川目小学校一年）の「おいしそうなおにぎりだ!!」は、画面にあふれるばかりのおにぎりと喜びいっぱい表現が印象的な作品です。小島実奈さん（盛岡市・下橋中学校二年）の「お米と私」は、確かなデッサン力に支えられたおにぎりを握っている私、その横の笑顔いっぱいの友達、奥に広がりのある背景、色鉛筆を主とした温かい着色など、完成度の高い作品です。

学校奨励賞の湯口小学校は応募数が多く、全国コンクールでも優秀賞を受賞するなど、意欲的な取組が高く評価されました。日本人の主食であるお米の大切さ、お米を作っている人々への感謝の気持ちが伝わってくる力作が多かったことを付け加えて講評いたします。

第三十八回「ごはん・お米とわたし」作文・図画

コンクールに、今年もたくさん児童生徒の皆さんが応募してくださいました。「ごはん・お米と自分とのかかわり」について、じっくり考え、書き表し方を工夫してしっかりとまとめられた作品が多く、審査をしていて心に迫るものがありました。

岩手県知事賞を受賞した佐々木恵利佳さん（陸前高田市・高田東中学校一年）の「米づくり―陸前高田市からのレポート―」は、陸前高田市の様子や人々の努力の様子が目に浮かぶとともに、支えてくれる人たちへの感謝の気持ちと復興への強い決意が胸に響く見事な作品です。書き出し等、表現がよく工夫されており、ぐいぐいと作品に引き込まれました。

岩手県教育長賞を受賞した菊池みずきさん（奥州市・木細工小学校四年）の「もつとつながっていきたい」は思ったことや感じたことが上手にまとめられており、ごはんが大好きなみずきさんの気持ちがよく伝わってくる素晴らしい作品です。お米と自分の生活の関わりを様々な視点でよく見つめていることに感心しました。

東北農政局盛岡地域センター長賞を受賞した小山希来さん（一関市・室根東小学校二年）の「おいしーいごはんのひみつ」は、おいしいさんの米作りへの愛情と地道な努力をよく見つけ、感じたことを素直に表現して好感がもてました。

J A岩手県五連会長賞を受賞した菅野映和さん（一関市・岩手県立一関第一高等学校附属中学校二年）の「お米に隠された凄じい力」は祖母の言葉や米作りへの真摯な姿に触れた映和さんの考えの深まりが感じられるとともに、表現の巧みさにも圧倒されました。

優秀賞を受賞した菊池美乃里さん（奥州市・木細工小学校三年）の「おいしいごはんになあれ」は、お米とぎのお手伝いを通してお母さんや家族とのふれあいや愛情が伝わられており、読んでいて心がほっこりしてきました。

同じく優秀賞を受賞した佐々木佳子さん（二戸市・浄法寺小学校六年）の「支えてくれるお米」は、農家の人たちの大変さ、携わる人のお米への愛情など、田植え・稲刈り体験を通して感じたことが豊かな言葉でまとめられていました。

これらの受賞作品の他にも素晴らしい作品がたくさんありました。間もなく東日本大震災から三年になります。今なお震災の影響がありながらも、ひたむきに学校生活を送っている児童生徒の皆さんからもたくさんのお米があり、どの作品からも、児童生徒の皆さんのお米作りやごはん食・お米に関心している思い、家族の愛情がよく伝わってきました。これからも、ごはんをたくさん食べて健康な体をつくること、素直な気持ちを作文に表現することを通して、豊かな心を育むことを願っています。

【全国コンクール】

◆優秀賞

佐藤 拓 花巻市立湯口小学校 5年 「円万寺田植えおどり」

【岩手県コンクール】

◆岩手県知事賞

佐藤 拓 花巻市立湯口小学校 5年 「円万寺田植えおどり」

◆岩手県教育長賞

及川 凜 奥州市立佐倉河小学校 5年 「ほっかほかごはん大好き！」

◆東北農政局盛岡地域センター長賞

小宅 真由 盛岡市立城東中学校 1年 「お米とわたし」

◆JA岩手県五連会長賞

齊藤 璃音 盛岡市立向中野小学校 1年 「おひるだよー！」

◆優秀賞

佐々木 円 花巻市立内川目小学校 1年 「おいしそうなおにぎりだ!!」

小島 実奈 盛岡市立下橋中学校 2年 「お米と私」

◆学校奨励賞

花巻市立湯口小学校

◆佳作

佐藤 凜 本宮小 1年 「虫とりのあとのおにぎり」

齊藤 依音 戸田小 5年 「橋本さんに教わって

岩渕 壱磨 永井小 2年 「ぴーちゃんがつくった

田植えをしました」

伊藤 結 内川目小 2年 「早くたべたいな。 おにぎり」

千葉 紅亜 衣里小 5年 「さくらみ、はなみ、 いいはなみ」

安藤 羽香 種市小 3年 「おいしいごはんわたし

おいしいおにぎり」

大久保美紀 種市中 1年 「自然の中で食べるお米は

稗貫智佳子 黒沢尻北小 3年 「なのはなと おじさん」

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

鈴木 麻生 越喜来小 4年 「ごはん大好き」

平野ひかり 江釣子中 2年 「私と野球とおにぎり」

千葉 翔太 真城小 5年 「2人でおにぎり

おいしいね」

佐藤 伶 舞川中 3年 「どっちもおいしい」

高橋 美香 若柳小 3年 「元気はごはんから」

小原 侑奈 和賀西中 3年 「1粒のお米と私達」

本川 美優 戸田小 5年 「田植え、がんばったよ」

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高村 滂蒔 金田一小 5年 「いっぱい食べるぞ、

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

高橋 花音 衣川小 5年 「おいしいごはん

高橋 朋実 上野中 2年 「笑顔」

【全国コンクール】

◆優秀賞

菊池 みずき 奥州市立木細工小学校 4年 「もっとつながっていきたい」
佐々木 恵利佳 陸前高田市立高田東中学校 1年 「米づくり ― 陸前高田市からのレポート ―」

【岩手県コンクール】

◆岩手県知事賞

佐々木 恵利佳 陸前高田市立高田東中学校 1年 「米づくり ― 陸前高田市からのレポート ―」

◆岩手県教育長賞

菊池 みずき 奥州市立木細工小学校 4年 「もっとつながっていききたい」

◆東北農政局盛岡地域センター長賞

小山 希来 一関市立室根東小学校 2年 「おいしい ごはんの ひみつ」

◆JA岩手県五連会長賞

菅野 映和 岩手県立一関第一高等学校附属中学校 2年 「お米に隠された凄い力」

◆優秀賞

菊池 美乃里 奥州市立木細工小学校 3年 「おいしいごはんになあれ」
佐々木 佳子 二戸市立浄法寺小学校 6年 「支えてくれているお米」

◆学校奨励賞

奥州市立木細工小学校

◆佳作

菊池 明莉 木細工小	2年	「おいしいお米」	田村 裕之 飯岡中	1年	「毎日のごはん」
小野寺 蓮 室根東小	2年	「かぞくみんなでしごと」	堀内 大翔 大平中	1年	「ごはんが 教えてくれたこと」
菊池 飛鳥 木細工小	3年	「うちの米づくり」	佐藤 麻央 田原中	1年	「我が家のおいしいお米」
杉澤 一慧 浄法寺小	3年	「ぼくのうちのお米作り」	佐藤 夏海 矢沢中	1年	「お米について 改めて感じた日」
畠山 公花 卷小	3年	「ごはんはぼくの命のもと」	多田 悠 飯豊中	2年	「米をつくる」
佐藤 琴心 浄法寺小	3年	「もりおかの 子どもたちとの こうりゅう」	織茂 駿斗 北陵中	2年	「神秘のお米と今」
佐々木 怜美 一関小	3年	「さい後の一つぶまで」	小菅 一 飯豊中	2年	「感謝の気持ちを込めて」
梅村 琴音 東和小	4年	「お米」	佐藤 謙江 石鳥谷中	3年	「祖父の言葉」
佐籐 旭 千徳小	5年	「お米の旅」	川原みなみ 大平中	3年	「忘れられない味」
臼井 夕菜 末崎小	6年	「私の夢」	阿部 陽 飯岡中	3年	「お米への感謝」
栗村 真衣 末崎小	6年	「待っててね」			
菊池 祐人 木細工小	6年	「学校のお米作りを通して」			
志田 凌太 室根東小	6年	「お米とぼく」			

第 38 回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクールの概要

応募点数

学 校	作 文	図 画	合 計
小学校	25	276	301
中学校	96	25	121
計	121	301	422

応募締切日

平成25年 9 月13日

県コンクール第1次審査会

平成25年10月23日（全国コンクール推薦作品18点を決定）

県コンクール第2次審査会

平成25年12月12日

表彰式

平成26年 1 月29日 盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡 本館」

主催

岩手県内 J A ・ J A 岩手県中央会

後援

岩手県・岩手県教育委員会・東北農政局盛岡地域センター
いわて純情米需要拡大推進協議会・J A 岩手県信連
J A 岩手県厚生連・J A 全農いわて・J A 共済連岩手

審査員（敬称略）

審査委員長	八重樫 勝	岩手県教育委員会委員長
審査委員	伊 藤 満 久	元岩手県国公立幼稚園協議会会長
審査委員	小 林 満	盛岡市教育委員会学校教育課指導主事
審査委員	制 野 良 男	東北農政局盛岡地域センター総括管理官
審査委員	小 島 純	岩手県農林水産部流通課流通改善担当課長
審査委員	菅 原 和 則	J A 岩手県信連代表理事専務
審査委員	佐々木 辰 男	J A 岩手県厚生連常務理事
審査委員	小田島 利 昭	J A 全農いわて県本部長
審査委員	小 原 市右エ門	J A 共済連岩手県本部長
審査委員	畠 山 房 郎	J A 岩手県中央会常務理事

※このコンクールに対するご意見・ご感想をお待ちしております。

JA岩手県中央会 農業対策部 〒020-0022 盛岡市大通り一丁目2番1号 TEL019-626-8522
ホームページ<http://www.ja-iwate.or.jp/> Eメールアドレス nosei-ko@jaiwate.or.jp

みんなの**力**で!



がんばろう!岩手

JAいわてグループ

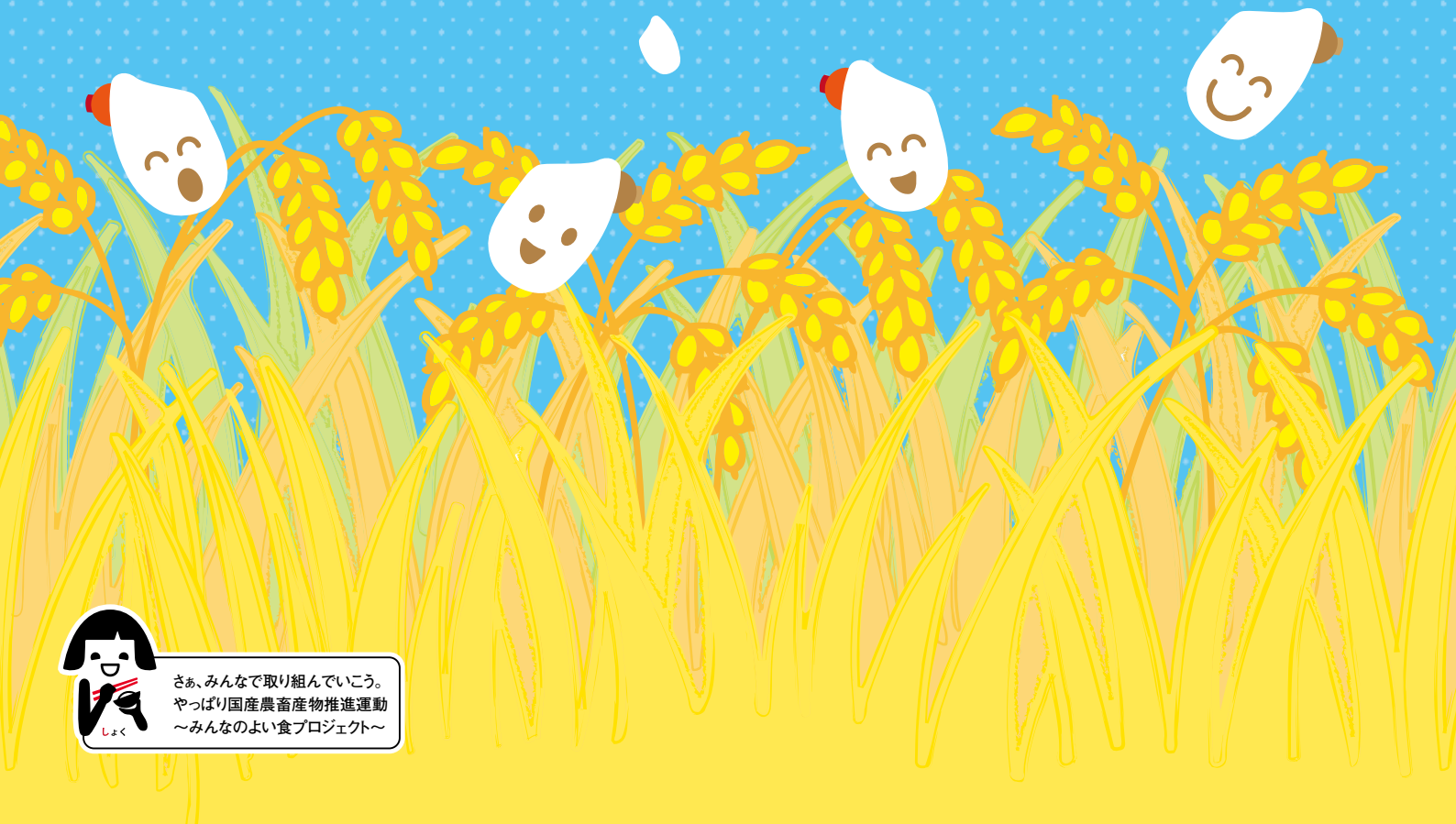


JA岩手県中央会

発行/平成26年1月29日

企画・編集・発行/JA岩手県中央会

印刷・製本/川嶋印刷株式会社



さあ、みんなで取り組んでいこう。
やっぱり国産農畜産物推進運動
～みんなのよい食プロジェクト～